

女の子の初正月・羽子板

厄を跳ね(羽根)のけ、幸せを呼ぶ



羽子板の歴史

室町時代に硬貨をつけ錘とした羽根を蹴る遊びがあり、これが羽根つきの起源とされています。宮中のことを記録した「看聞御日記」に羽根つきの記録があります。この記録には公卿や女官が羽根つきをし、負けた組が酒を振舞ったとの記録があります。戦国時代から羽根つきに厄払いの想いがあり、江戸時代は年末に邪気よけとして羽子板を贈つたとのことです。今も女兒の初正月に羽子板を贈る習慣が残っています。

羽子板は女の子のお守り

羽子板で突く羽根の玉、あの黒くて堅い玉は「むくろじ」という大木の種です。この「むくろじ」は、漢字で「無患子」と書きます。「子が患わ無い」という意味です。つまり羽子板は、赤ちゃんの無病息災の意味です。また、羽子板は、赤ちゃんの羽根がトンボに似ていることから、蚊を食べるトンボ、つまり蚊は羽根を恐れるため、ひいては子が蚊に刺されないようにという、同じような無病息災の意味も持っています。





女の子の初正月・羽子板



羽子板立てを使って、羽子板を飾っていただくのもよいでしょう。

毎年のお誕生日やひな祭り、そして二十歳の記念日など、心優しい思いの込められた羽子板を飾つてお祝いしましょう。

贈答のしきたり

一般的には赤ちゃんの祖父母が贈ることが多いようすです。羽子板はその子のお守りですから、次女・三女が生まれても一人ひとりに贈り、一緒に飾つてあげましょう。

飾る時期

一般的には十二月になつたら飾り付けをします。また、おひな様を飾る時、一緒に飾つていただくとよいでしょう。

初正月のお祝いの仕方

お正月に羽子板を贈つて頂いた方々を招いて、おせち料理などでおもてなしするのも良いでしょう。また招いた方々にお礼状をお出しする時は、赤ちゃんのスナップ写真を添えると喜ばれます。

